



Vol.24

榎陶和の渡辺です。「ありがとう通信」を読んでいただきありがとうございます。今回は1200年の樫について書かせていただきます。私の住む府中市の「大国魂神社」には素晴らしい樫があり、神社を参る方々を迎えてくれます。毎年参拝して、会社の発展と渡辺家の家内安全を祈ってきます。金沢にあるA社の社長のお母さんから、「家の1200年樫を見に来てください。」とお言葉を頂き、今年5月26日お伺いさせて頂きました。車から降りて、「1200年樫」が目飛び込み、凄いの一言。靴と靴下を脱ぎ、樫と同じ石畳の大地を踏み、その感触を一心に取り入れ、ゆっくり歩き、樫の前にたどり着き、天まで届く枝から青々とした葉っぱが太陽の光をいっぱいに浴びて輝いていました。私は両手で樫のお腹（足首かな）を触れました。大国魂神社では柵があり樫に触ることができません。生まれて初めて1200年の樫に触れ、幹の太さに感動しました。大人が何人で抱けるのか、検討もつかない。1200年の歴史ある幹です。手で触れた時、涙が出そうになり、心で泣きました。一粒の涙が大地に落ちて、樫に伝わり、一瞬一体の心境になりました。両手に伝わる樫の鼓動が私に何かを与えようと・・・私も真剣に受け入れようと・・・そして、樫と会話をして内緒のお願いを話しました。（声は出していませんよ。）靴下を履くときも、大地に落とさないように、心を込めて大切に履きました。生まれて初めて靴下を履くのに、全神経を使い丁寧に履きました。靴下を履くのに、心が洗われ・・・自分の行動にビックリ、73歳まで何も考えることなく靴下を履いていましたから。自然の森の中に200年の家があり、感動しました。家は昔、昔のままに玄關を開けていただければ、自然のある素晴らしいお庭、美味しい爽やかな風が迎えてくれました。城でしか見たことが無い「梁」の太さに驚きました。今日に、この太さの木はないと思いますよ。昔々、子供が着た服がかけてあり、家の柱、壁は日本色で輝いています。玄關に丸い福の下駄があり、そっと触らせていただきました。家に「大臣」「乞食」「捨て猫」などいろいろな方のお見えになるらしいです。お母様の笑顔、心から話される言葉、私が靴を脱いだ時も靴を脱いでお話をしてくださいました。日本のおもてなしを大切にされ、愛のある言葉と心に感動をしました。古き良き美しさの200年の家ビックリのお家でした。（住まいというのでビックリですよ。）車に乗る直前に、両手で握手をしてくださり、お母様の温かい心を全て頂こうと、ぬくもりを一心に受け入れ、温かい手肌、その血が私に注がれる状況でした。お母様から頂いた木肌を家の神棚、会社の神棚、私の財布の中に大切に保管させていただきます。帰るときには、どこからか沢山の優しい顔をしたネコがさようならとこちらを見て見送ってくれました。この行動にもビックリしました。お母様、「ありがとうございました。」会長がたまたま通った道の左側には、27歳までお世話になった「村田製作所」がありそれもビックリ。私たち夫婦はこの会社にお世話になり、出遭い、私は素晴らしい伴侶を得ました。この事を、車中とお庭の素晴らしい料亭でお食事をしながら、喋りまくりました。この日は私にとって一生忘れられない最高のひと時でした。今回、人にも動物にも愛情を惜しみなく注ぐ、「利他」「慈愛」の言葉がピッタリなお母様に会え、光栄に思い、ありがたく思います。次回も読んで！

とうわ
株式会社陶和
代表取締役
渡辺正道



〒183-0011 東京都府中市白糸台3-37-4
T:042-369-3131 F:042-369-3184 Email:w@kktowa.co.jp